

「実践農学」西紀北で

神戸大 14農家が受け入れ

神戸大学が丹波篠山市内のまちづくり協議会と連携して行っている授業「実践農学入門」がこのほど、今年度の受け入れ地域の西紀北地区で始まった。農学部1年生を中心に学生50人と篠山東雲高校の生徒10人が参加。同地区内4集落の農家14軒が協力し、3-8人に分かれて農作業に取り組んだ。2007年度から始まり、09年度からは各まち協が順に受け入れており、12地区目。昨年度は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

同地区の草山郷づくり協議会の会長で、黒豆農家の(さん)(70)川阪は4人を受け入



黒豆畑で土寄せを体験する学生たち＝丹波篠山市川阪で

れ、黒豆を育てている畝の土寄せに汗を流した。さんは、「座学では学べないことがあるだろうと参加した。この作業をいつもは農家1人でされていると思うと大変さが分かった」と汗をぬぐい、さんは「作業を体験し、食べ物は大事にしようと思っただとしても学生たちの糧になる」と信じている。われわれにとっても若い人たちが農作業の場に来てくれることが活力にもなる。地域で何かやってみようと思ってくれたら、農村の未来は明るい」と期待していた。

受け入れ農家宅へ出向き、その時々農作業を経験する。当初、6月の開講予定だったが、緊急事態宣言が出ていたため、開講が遅れた。

同協議会長の(さん)は、「若いときに農作業で汗をかいた経験が、この先、どんな分野に進んだとしても学生たちの糧になる」と信じている。われわれにとっても若い人たちが農作業の場に来てくれることが活力にもなる。地域で何かやってみようと思ってくれたら、農村の未来は明るい」と期待していた。

丹波新聞
2021年7月22日